

オルガノ株式会社

2024年3月期 決算説明会資料

(証券コード : 6368)

2024年5月15日

目次

1. 24年3月期実績・25年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

目次

1. 24年3月期実績・25年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

24.3期実績・25.3期計画の概要

2024年3月期 実績

(単位：百万円)	24.3期実績	前期比	前回見込比 (2024.2.2)
受注高	144,468	-29,023 (-16.7%)	+968 (+0.7%)
売上高	150,356	+17,930 (+13.5%)	+356 (+0.2%)
営業利益	22,544	+7,332 (+48.2%)	+544 (+2.5%)
(%)	15.0%	+3.5pt	+0.3pt
ROE(%)	18.4%	+3.9pt	+1.7pt

- 受注高は大型案件が続いた前期の反動もあり減少もソリューション事業や一般産業など好調に推移
- 売上高は国内外で受注残案件の工事が順調に進捗。設備保有型などソリューション事業の伸長も寄与
- 営業利益は売上拡大の効果に加え、受注採算性の改善や原価低減などの取組みによって利益率が向上

2025年3月期 計画

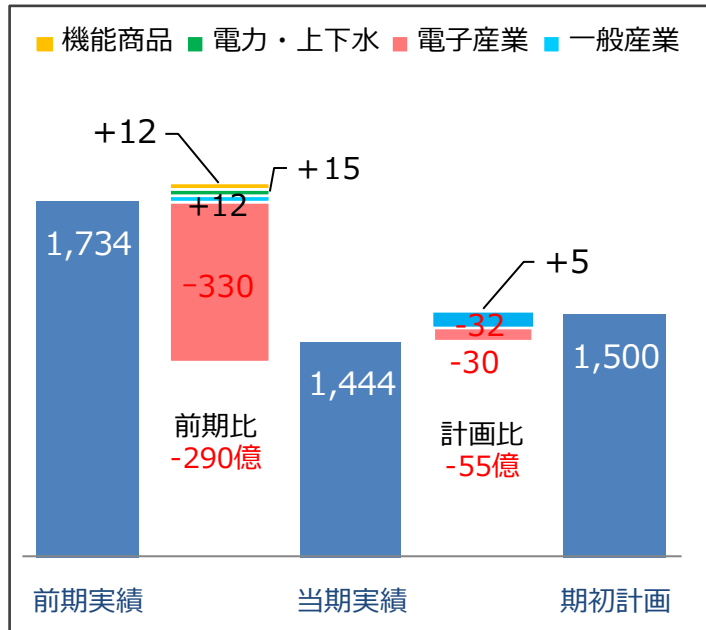
(単位：百万円)	25.3期計画	前期比
受注高	155,000	+10,532 (+7.3%)
売上高	155,000	+4,644 (+3.1%)
営業利益	23,000	+456 (+2.0%)
(%)	14.8%	-0.2pt
ROE(%)	15.0%	-3.4pt

- 受注高は投資意欲活発な半導体分野を中心に、国内外で設備投資が高水準で推移することを想定
- 売上高は受注案件の工事進捗に加え、ソリューション事業の拡大や水処理薬品等の拡販も計画
- 営業利益は15%前後の利益率を維持。さらなる成長や納入キャパシティの拡大に向けた投資を強化

24年3月期：通期決算の概況

(単位：億円)

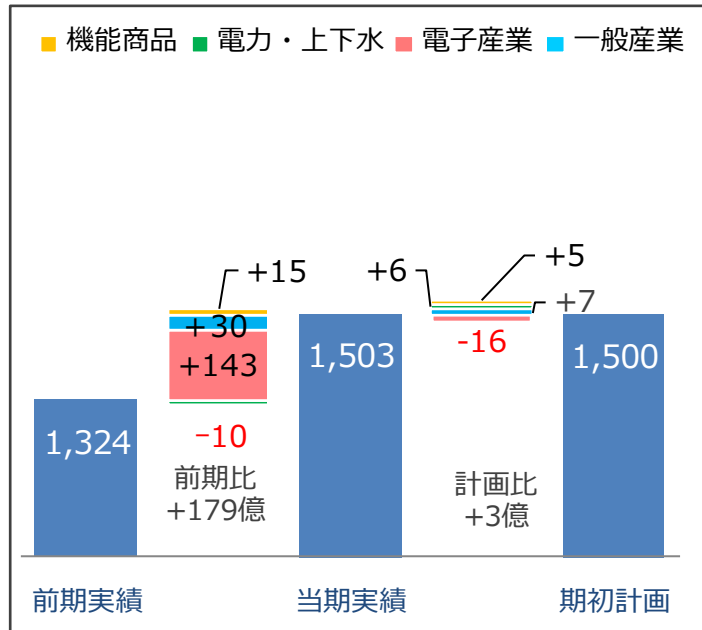
受注高分析



【受注高】

前期比では大型案件が相次いだ前年からの反動減、計画比では一部の案件で発注時期が想定よりも後ろ倒しとなったことなどで減少も、半導体を中心に設備投資の水準は国内外とも高い水準で推移。

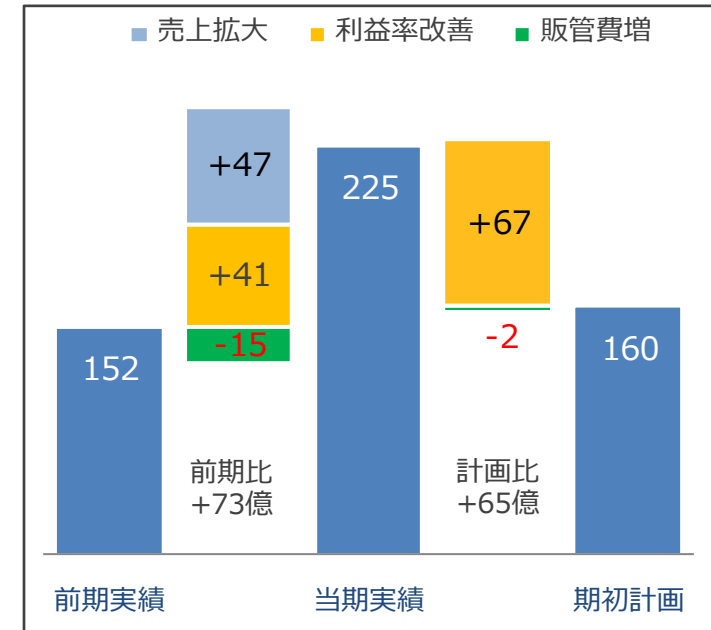
売上高分析



【売上高】

前期比では電子産業を中心に大型案件の工事進捗や、ソリューション拡大などで売上増。計画比では半導体関連の一部案件で工事進捗が想定より遅れも、各分野の売上増でカバー。

営業利益分析



【営業利益】

前期比では売上拡大効果に加え、プラントの採算性改善やソリューション拡大などで利益率改善、人件費など販管費の増加をカバー。計画比ではプラント・ソリューションとも利益率が想定以上に改善。

24年3月期：連結損益計算書

(単位：百万円)	23年3月期 通期実績	24年3月期			前期比	期初 計画比	前回 見込比
		期初計画	前回見込 (2024.2.2)	通期実績			
受注高	173,491	150,000	143,500	144,468	-29,023 (-16.7%)	-5,532 (-3.7%)	+968 (+0.7%)
売上高	132,426	150,000	150,000	150,356	+17,930 (+13.5%)	+356 (+0.2%)	+356 (+0.2%)
売上総利益	34,976	37,000	43,000	43,841	+8,865 (+25.3%)	+6,841 (+18.5%)	+841 (+2.0%)
(%)	26.4%	24.7%	28.7%	29.2%	+2.8pt	+4.5pt	+0.5pt
販管費	19,763	21,000	21,000	21,297	+1,534 (+7.8%)	+297 (+1.4%)	+297 (+1.4%)
営業利益	15,212	16,000	22,000	22,544	+7,332 (+48.2%)	+6,544 (+40.9%)	+544 (+2.5%)
(%)	11.5%	10.7%	14.7%	15.0%	+3.5pt	+4.3pt	+0.3pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,730	11,200	17,000	17,310	+5,580 (+47.6%)	+6,110 (+54.6%)	+310 (+1.8%)
ROE(%)	14.5%	12.6%	18.4%	18.4%	+3.9pt	+5.8pt	+0.0pt

24年3月期：セグメント別の業績

(単位：百万円)		23年3月期 通期実績	24年3月期		前期比	期初 計画比	前回 見込比	
		期初計画	前回見込 (2024.2.2)	通期実績				
全社	受注高	173,491	150,000	143,500	144,468	-29,023 (-16.7%)	-5,532 (-3.7%)	+968 (+0.7%)
	売上高	132,426	150,000	150,000	150,356	+17,930 (+13.5%)	+356 (+0.2%)	+356 (+0.2%)
	営業利益	15,212	16,000	22,000	22,544	+7,332 (+48.2%)	+6,544 (+40.9%)	+544 (+2.5%)
	(%)	11.5%	10.7%	14.7%	15.0%	+3.5pt	+4.3pt	+0.3pt
水 工 シ	受注高	152,422	128,200	121,500	122,122	-30,300 (-19.9%)	-6,078 (-4.7%)	+622 (+0.5%)
	売上高	111,601	128,200	128,000	127,995	+16,394 (+14.7%)	-205 (-0.2%)	-5 (-0.0%)
	営業利益	12,966	13,500	19,100	19,582	+6,616 (+51.0%)	+6,082 (+45.1%)	+482 (+2.5%)
	(%)	11.6%	10.5%	14.9%	15.3%	+3.7pt	+4.8pt	+0.4pt
機 能 商 品	受注高	21,068	21,800	22,000	22,346	+1,278 (+6.1%)	+546 (+2.5%)	+346 (+1.6%)
	売上高	20,824	21,800	22,000	22,360	+1,536 (+7.4%)	+560 (+2.6%)	+360 (+1.6%)
	営業利益	2,246	2,500	2,900	2,961	+715 (+31.8%)	+461 (+18.4%)	+61 (+2.1%)
	(%)	10.8%	11.5%	13.2%	13.2%	+2.5pt	+1.8pt	+0.1pt

24年3月期：連結貸借対照表

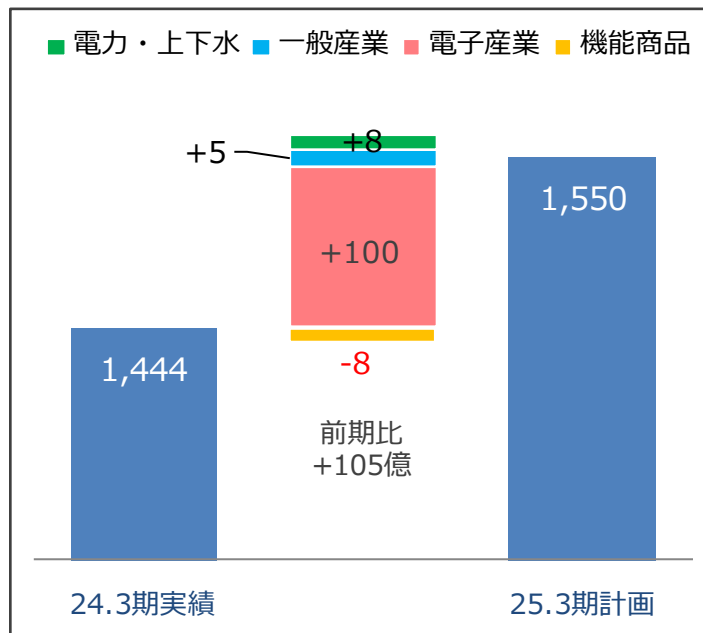
(単位：百万円)	23年3月期 通期実績	24年3月期 通期実績	前期比
現預金	15,558	17,642	+2,084
売掛債権・契約資産	75,683	82,226	+6,542
商品・製品・原材料等	8,909	12,609	+3,700
リース投資資産	9,853	27,814	+17,960
仕掛品	21,886	9,221	-12,664
その他	4,873	3,955	-918
流動資産合計	136,765	153,469	+16,703
固定資産合計	28,088	29,233	+1,145
資産合計	164,854	182,703	+17,849

	23年3月期 通期実績	24年3月期 通期実績	前期比
買掛債務	25,545	22,682	-2,863
短期借入金	29,124	34,065	+4,940
その他	14,068	15,854	+1,785
流動負債合計	68,738	72,602	+3,863
長期借入金	3,895	2,400	-1,495
その他	5,849	5,553	-295
固定負債合計	9,744	7,953	-1,790
負債合計	78,483	80,555	+2,072
純資産合計	86,371	102,147	+15,776
負債純資産合計	164,854	182,703	+17,849

25年3月期：通期計画の概要

(単位：億円)

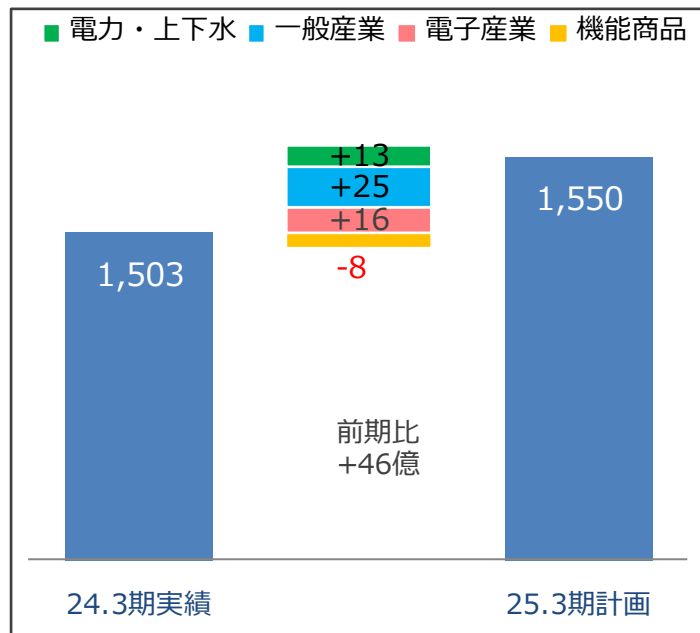
受注高分析



【受注高】

最先端半導体に向けた国内の大型プロジェクトの受注を想定。一般産業、電力・上下水は高水準の受注を維持。機能商品は食品分野で収益性改善に向けた事業構造の見直しを実施、不採算取引を整理。

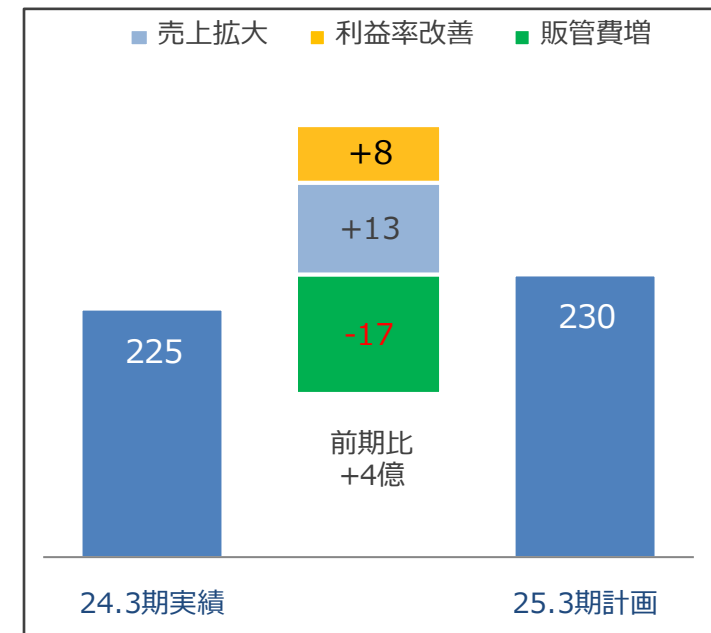
売上高分析



【売上高】

電子産業、一般産業、電力・上下水では大型案件の工事進捗、ソリューション拡大などで売上増を計画。機能商品は食品分野で収益性改善に向けた事業構造の見直しを実施、不採算取引を整理。

営業利益分析



【営業利益】

プラント・ソリューションなど水処理エンジニアリング事業の売上拡大効果によって、人件費など販管費の増加をカバー。利益率は若干の改善を想定。

25年3月期：連結損益計算書（計画）

(単位：百万円)	24年3月期		25年3月期		上期比較	通期比較
	上期実績	通期実績	上期計画	通期計画		
受注高	76,150	144,468	87,000	155,000	+10,850 (+14.2%)	+10,532 (+7.3%)
売上高	65,469	150,356	70,000	155,000	+4,531 (+6.9%)	+4,644 (+3.1%)
売上総利益	18,129	43,841	19,500	46,000	+1,371 (+7.6%)	+2,159 (+4.9%)
(%)	27.7%	29.2%	27.9%	29.7%	+0.2pt	+0.5pt
販管費	10,274	21,297	11,000	23,000	+726 (+7.1%)	+1,703 (+8.0%)
営業利益	7,855	22,544	8,500	23,000	+645 (+8.2%)	+456 (+2.0%)
(%)	12.0%	15.0%	12.1%	14.8%	+0.1pt	-0.2pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,538	17,310	5,500	16,100	-38 (-0.7%)	-1,210 (-7.0%)
ROE(%)	—	18.4%	—	15.0%	—	-3.4pt

25年3月期：セグメント別の計画

(単位：百万円)		24年3月期		25年3月期		上期比較	通期比較
		上期実績	通期実績	上期計画	通期計画		
全社	受注高	76,150	144,468	87,000	155,000	+10,850 (+14.2%)	+10,532 (+7.3%)
	売上高	65,469	150,356	70,000	155,000	+4,531 (+6.9%)	+4,644 (+3.1%)
	営業利益	7,855	22,544	8,500	23,000	+645 (+8.2%)	+456 (+2.0%)
	(%)	12.0%	15.0%	12.1%	14.8%	+0.1pt	-0.2pt
水 工 シ	受注高	65,084	122,122	76,300	133,500	+11,216 (+17.2%)	+11,378 (+9.3%)
	売上高	54,419	127,995	59,300	133,500	+4,881 (+9.0%)	+5,505 (+4.3%)
	営業利益	6,585	19,582	7,300	20,000	+715 (+10.9%)	+418 (+2.1%)
	(%)	12.1%	15.3%	12.3%	15.0%	+0.2pt	-0.3pt
機 能 商 品	受注高	11,065	22,346	10,700	21,500	-365 (-3.3%)	-846 (-3.8%)
	売上高	11,050	22,360	10,700	21,500	-350 (-3.2%)	-860 (-3.8%)
	営業利益	1,270	2,961	1,200	3,000	-70 (-5.5%)	+39 (+1.3%)
	(%)	11.5%	13.2%	11.2%	14.0%	-0.3pt	+0.8pt

目次

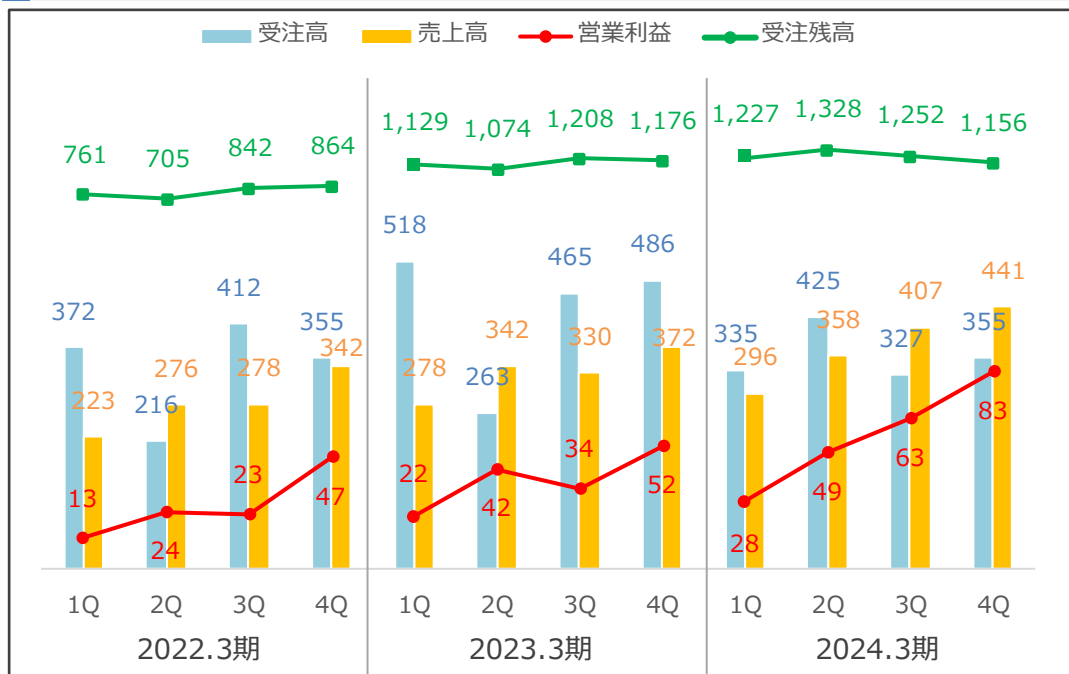
1. 24年3月期実績・25年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

受注高・売上高・受注残高・営業利益の推移

(単位：億円)

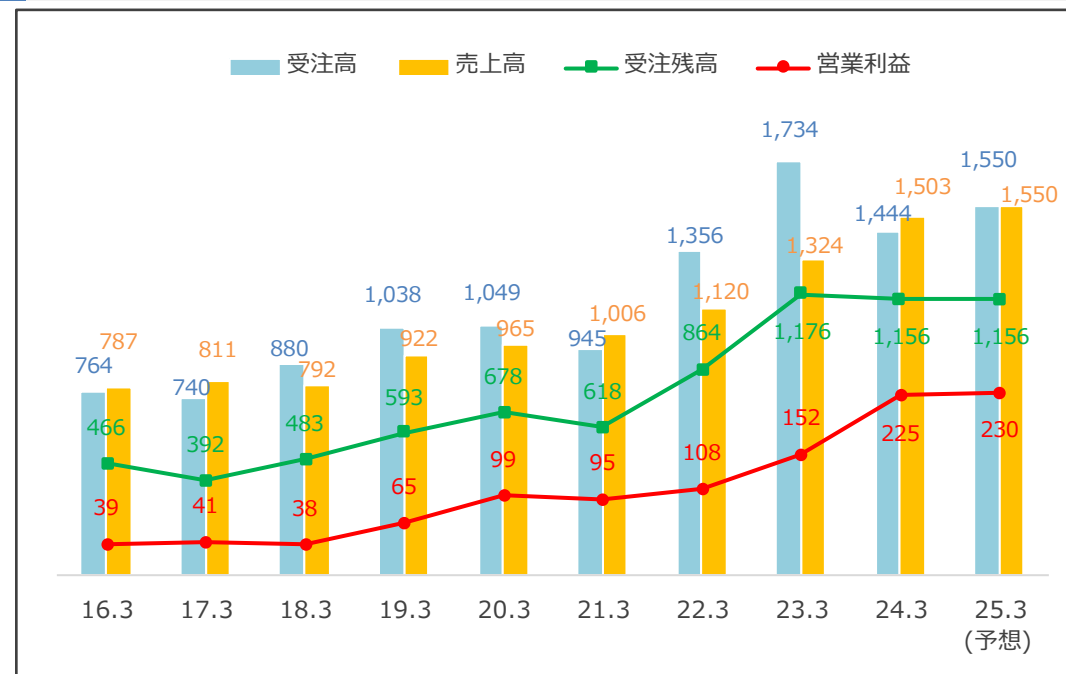
四半期間業績の推移 (22.3期～24.3期)



【四半期業績の推移】

受注高は大型プロジェクトの発注時期に影響。売上高は工事の進捗率に応じて計上されるが、期末納期の案件も多く、3月末に向かって緩やかに増加する傾向。営業利益はプロジェクトの予想原価修正や仕様変更・追加工事などに伴う追加金の交渉状況等によって左右されるが、期末に向かって増加する傾向。

年間業績の推移



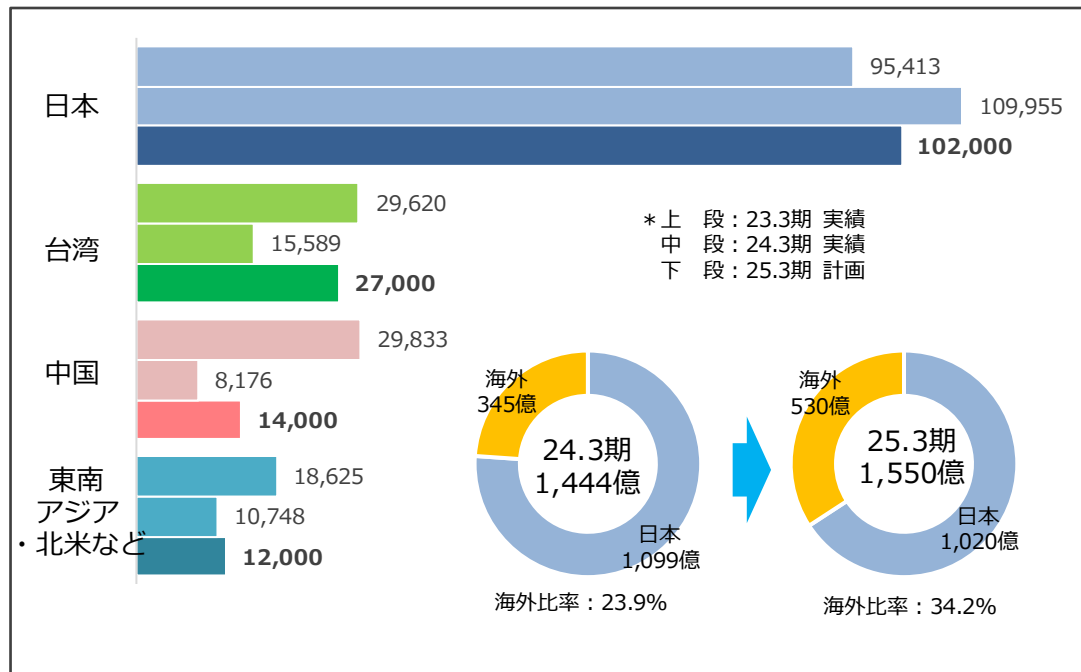
【年間業績の推移】

台湾などで半導体投資が活発化した2018年～業績が大幅改善、好調な受注環境が続き受注残高も高水準を維持。設備投資の活発化によって選択受注が進み、付加価値の高い案件に注力できたことや、投資規模の拡大と原材料・工事価格の上昇を背景とした受注価格の上昇も採算性改善を後押し。

地域別受注高・売上高の動向

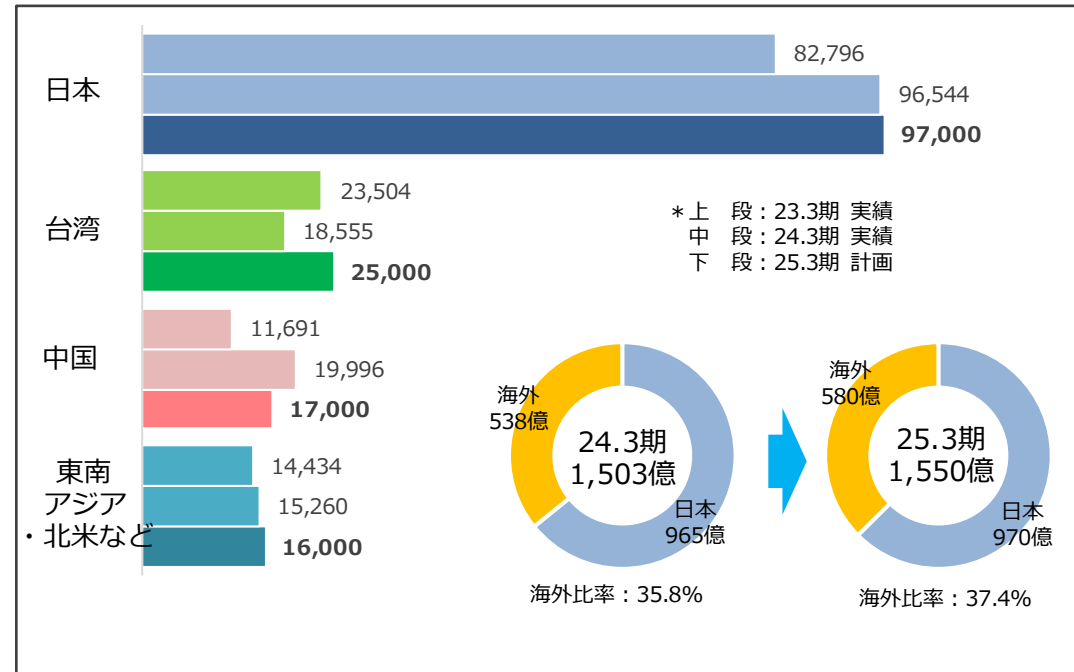
(単位：百万円)

地域別受注高



- 国内では24.3期に電子産業・一般産業とも受注拡大。25.3期も先端半導体投資を中心に高水準の受注を見込む
- 海外では前期に大型投資続いた反動もあって24.3期は減速。25.3期は台湾・中国など半導体投資の回復を想定

地域別売上高

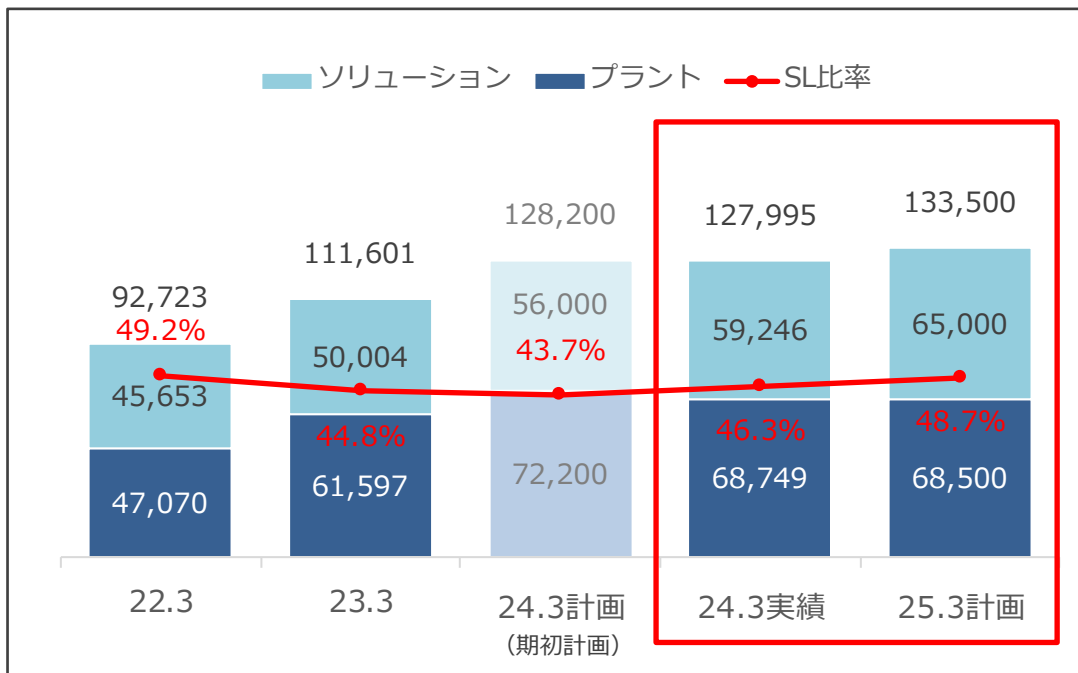


- 国内では電子産業・一般産業など好調な受注を背景に売上高も徐々に拡大していく想定
- 海外は台湾の売上が若干減速も25.3期には再び拡大、中国や東南アジアなどでも高水準の売上を想定

事業セグメント別・部門別売上高の推移

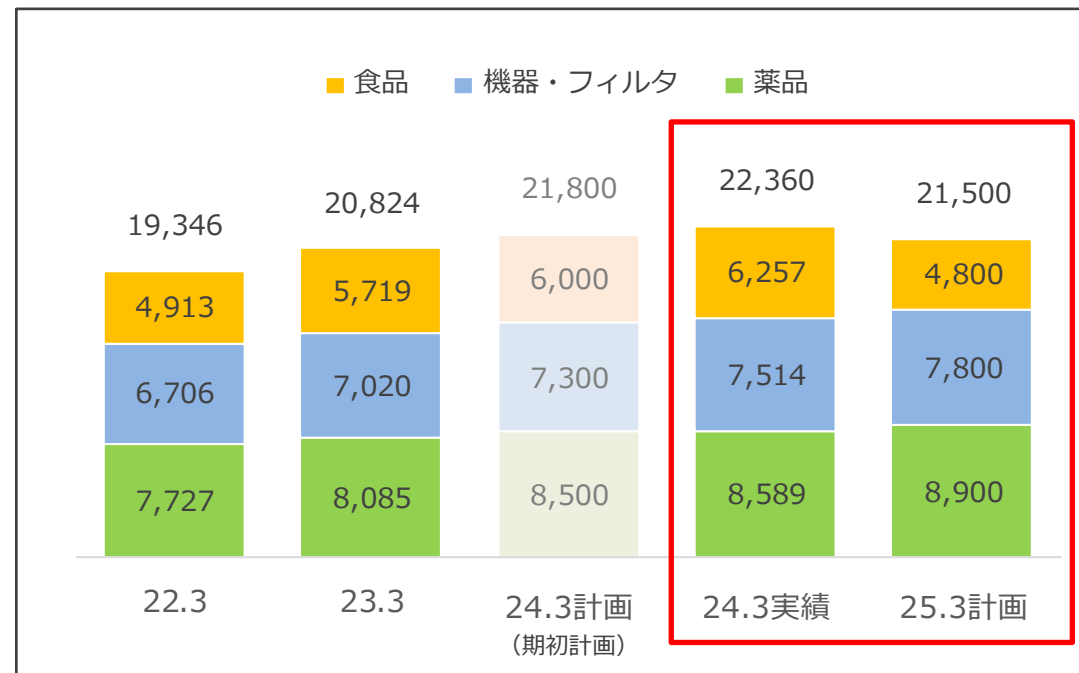
(単位：百万円)

水エンジニアリング事業：部門別売上高



- プラントは半導体など電子産業中心に拡大。25.3期も引き続き高水準の売上を想定
- ソリューションは設備保有型サービスの契約開始や、増加する納入設備へのメンテ拡大や改造案件増加など寄与。SL比率も増加を見込む

機能商品事業：部門別売上高

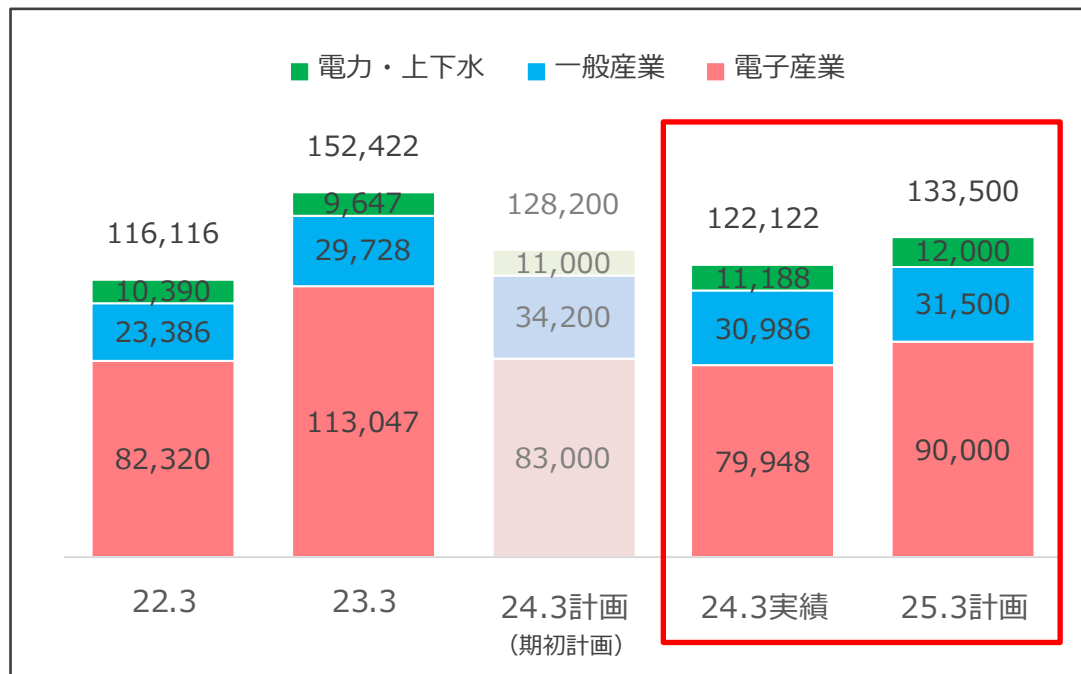


- 24.3期は各分野とも成長。薬品は納入プラントに対する各種薬剤の販売、機器・フィルタはラボ向けの小型純水装置ピュアリークシリーズなどが好調に推移
- 25.3期は薬品、機器・フィルタ伸長も、食品分野は収益改善目指し不採算取引の整理など構造改革を実施

水エンジニア事業：市場別受注・売上の推移

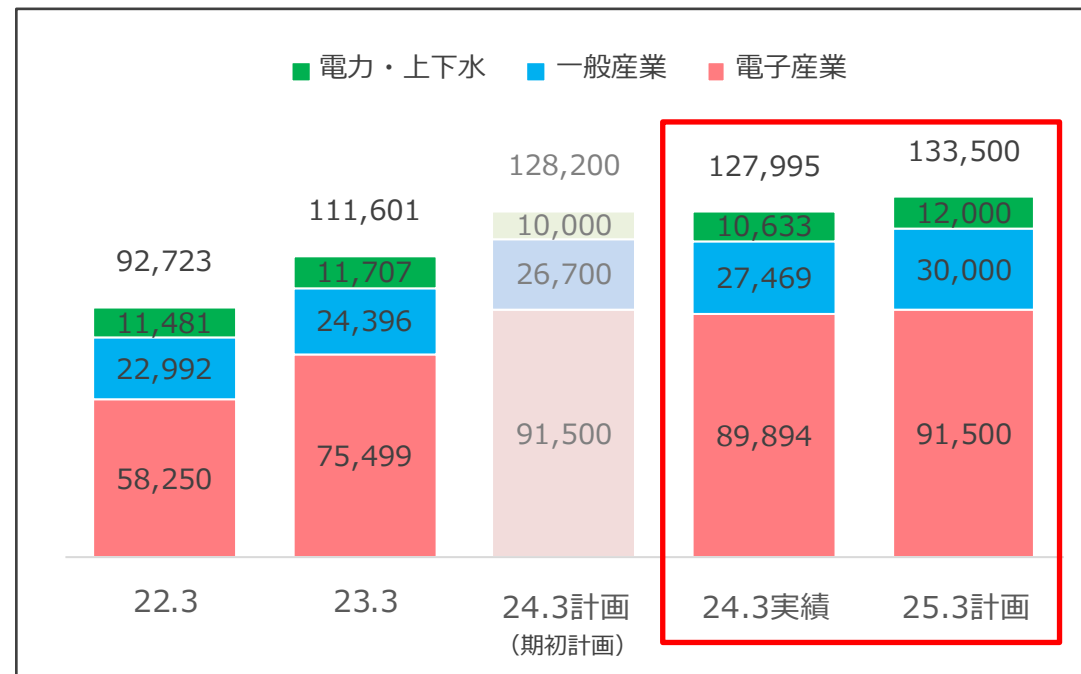
(単位：百万円)

市場別受注高



- 電子産業分野は国内外で大型案件が続いた前期までの反動減も影響。25.3期は国内の大型案件など受注増を計画
- 一般産業分野は医薬・電子周辺など順調に拡大。社会インフラ分野は原発の再稼働に向けたメンテなど取り込み

市場別売上高

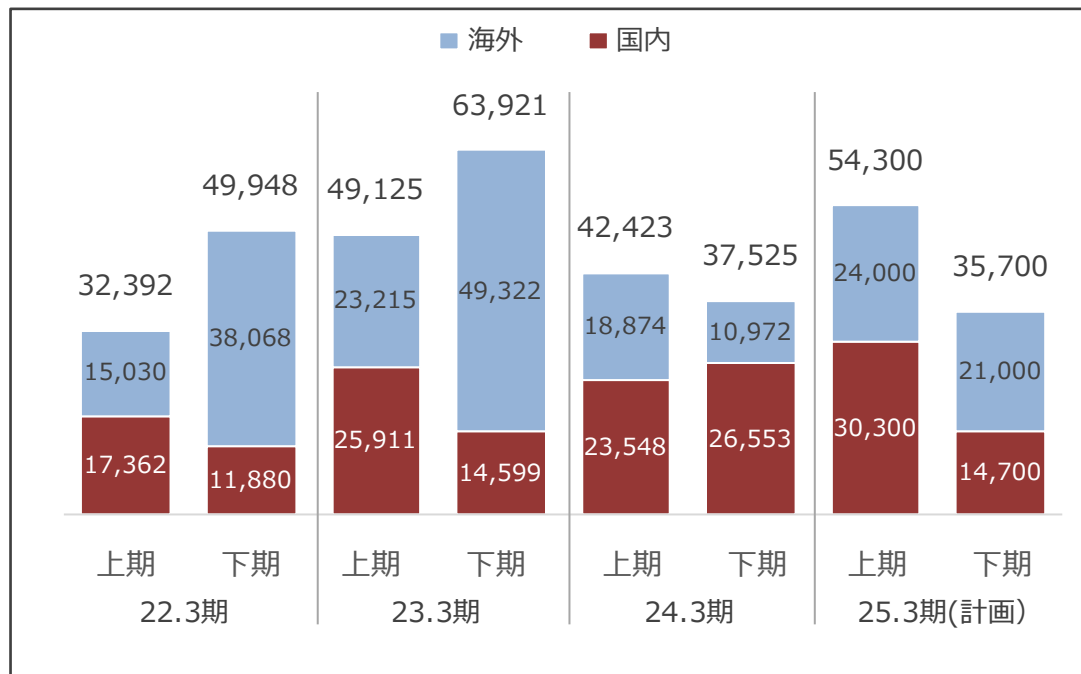


- 電子産業分野は大型案件の工事進捗や設備保有型サービスなどソリューション拡大で順調に売上が成長
- 一般産業分野は医薬・電子周辺などのプラント・ソリューション、社会インフラ分野は電力向けのメンテナンスなど好調な推移を見込む

水エンジニア事業：電子産業分野の受注・売上高の推移

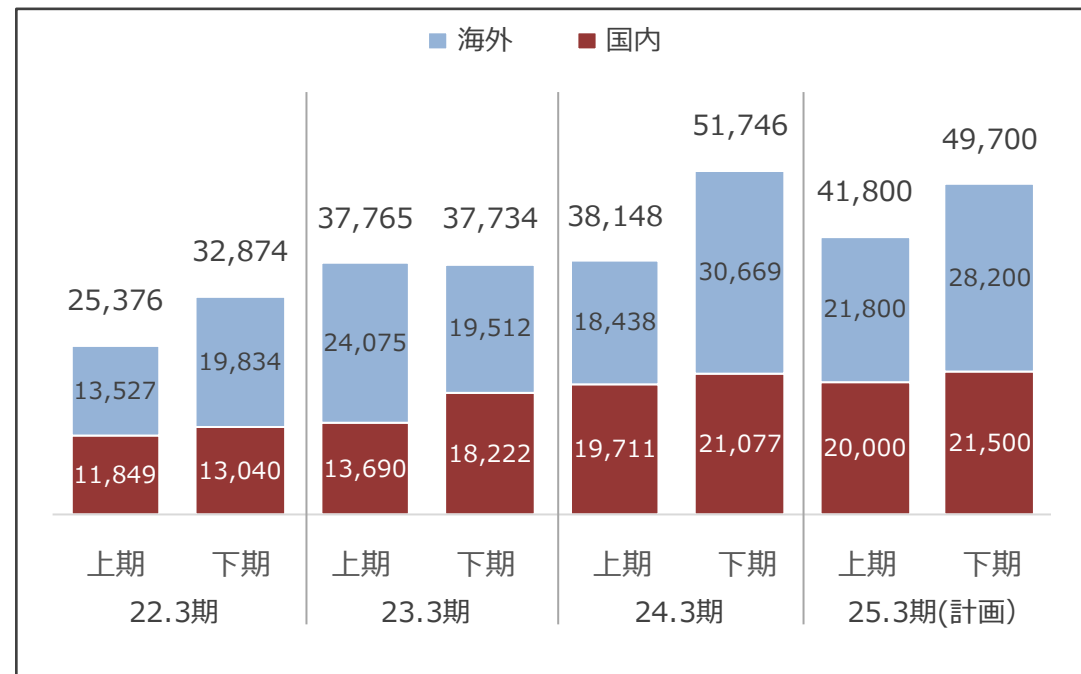
(単位：百万円)

電子産業分野：地域別受注高（半期推移）



- 24.3期は台湾・中国など海外で一服感も、国内でウェハーやパワー半導体などの投資が堅調に推移
- 25.3期は国内で先端半導体に向けた大型案件の受注を計画、海外でも台湾や中国など高水準の受注を想定

電子産業分野：地域別売上高（半期推移）

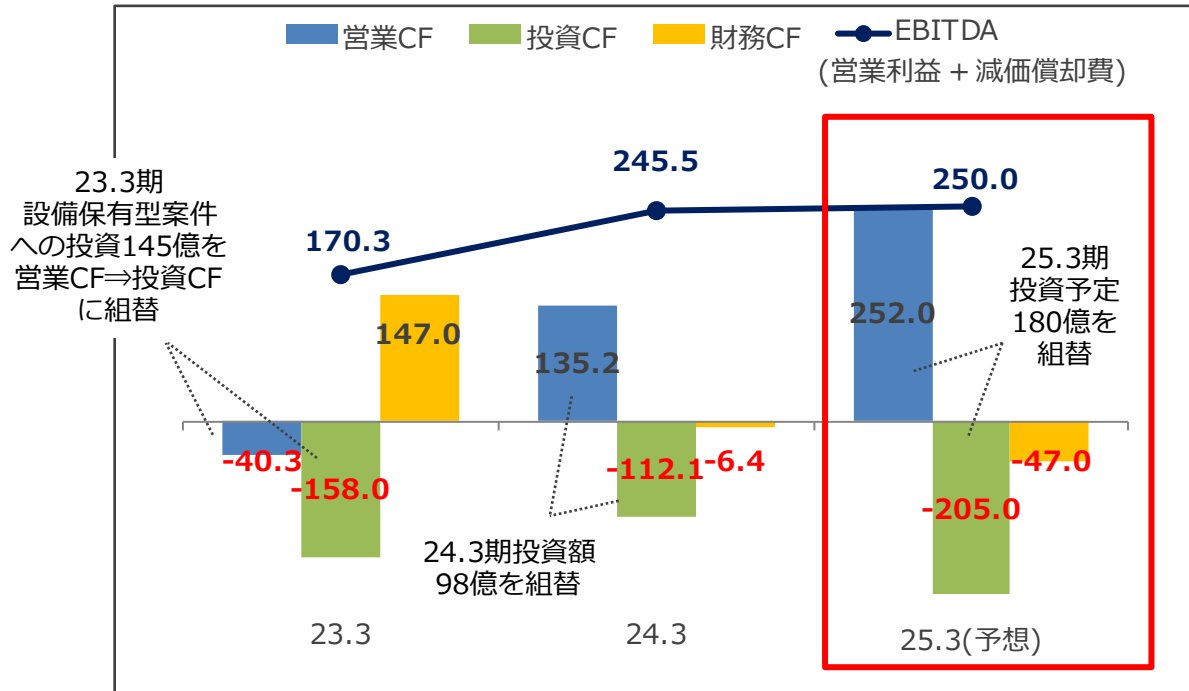


- 24.3期は中国などで大型案件の工事が進捗し海外売上が拡大、国内でもプラント・ソリューション売上が増加
- 25.3期も受注残案件の工事進捗や、ソリューションの売上拡大など売上高の増加を計画

キャッシュ・フローの動向

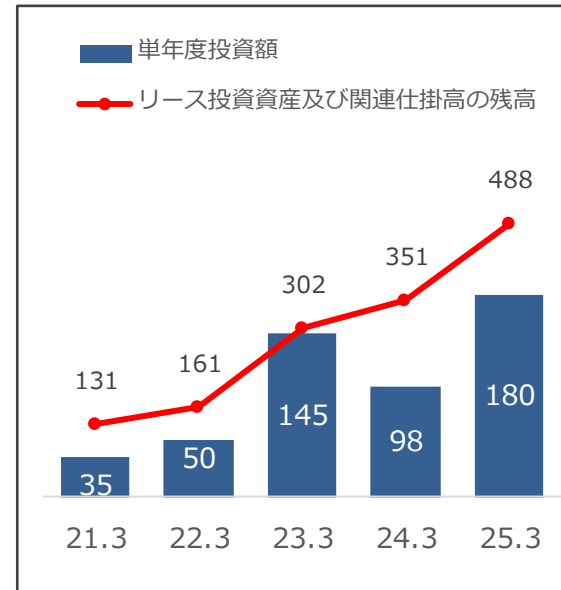
(単位：億円)

キャッシュ・フロー（組替後）の推移



- 当社のキャッシュ・フローは業績動向に加え、大型案件の工事進捗や代金の回収状況が増減に大きく影響
- 24.3期は23.3期に売上計上した案件の代金回収が進み営業CFが改善、25.3期も営業CF・投資CFの拡大を想定

設備保有型サービスへの投資動向



- 設備保有型サービスへの投資額はBSのリース投資資産（建設中は仕掛品）に計上され、契約期間に応じて減価償却を実施。流動資産に含まれるため、キャッシュ・フロー計算書では投資額を営業CFとして計上
- 左記のキャッシュ・フロー（組替後）グラフでは設備保有型サービスへの投資額を投資CFに組み替えて表示

主な指標

(単位：百万円)	23.3期	24.3期		25.3期
	通期実績	期初計画	通期実績	通期計画
設備投資額	1,466	2,000	1,855	2,500
技術研究費	2,615	3,020	2,829	3,400
減価償却費	1,824	1,800	2,010	2,000
有利子負債	33,019	25,000	36,465	37,000
従業員数 (人)	2,506	2,550	2,512	2,600

目次

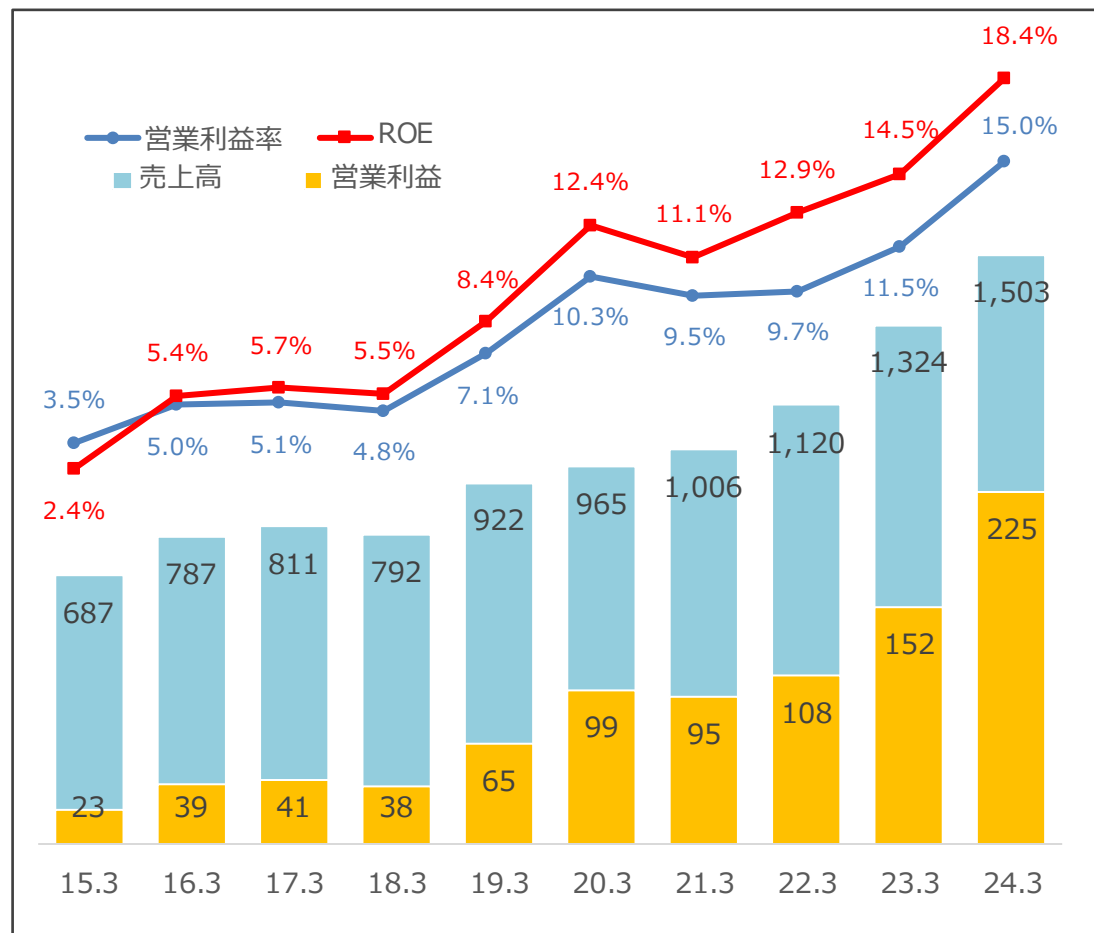
1. 24年3月期実績・25年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

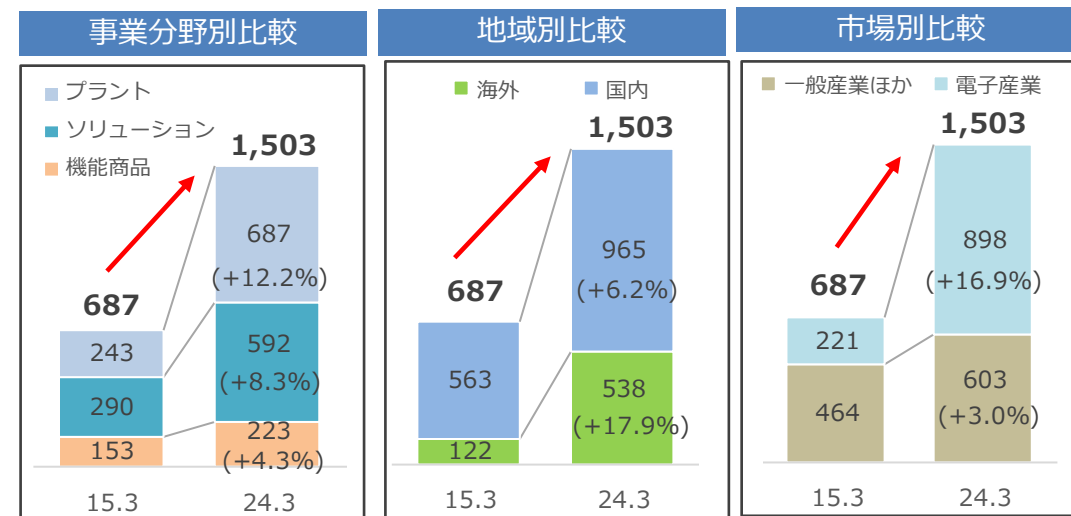
中長期計画：直近10年間の振り返り

(単位：億円)

業績の推移(2015.3~2024.3)



売上構成の比較(カッコ内はCAGR)

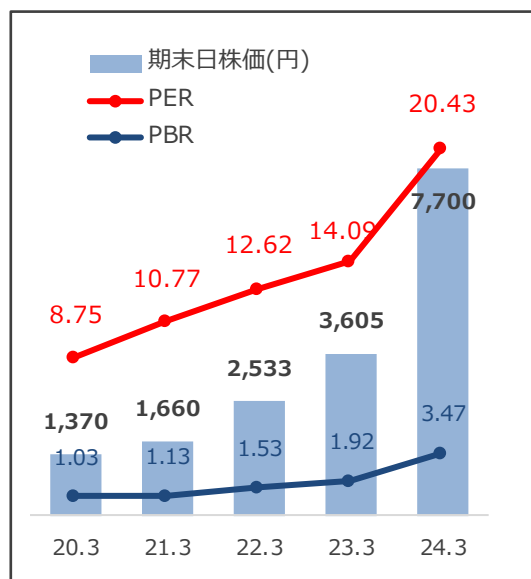
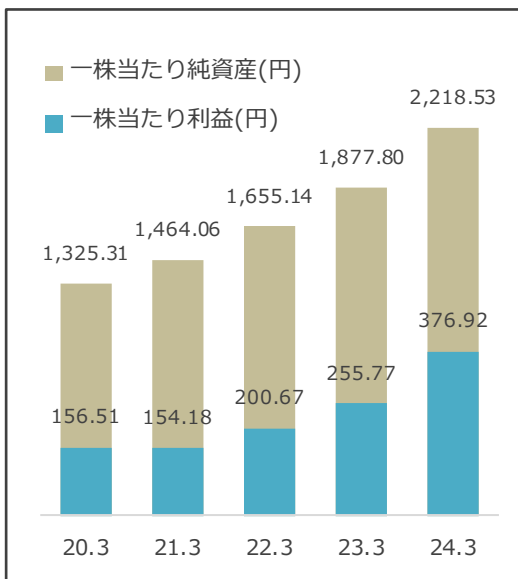


●直近10年間の振り返り

- ・プラントの売上拡大に伴ってソリューション・機能商品の売上も成長
- ・国内・海外とも電子産業向け中心に成長、海外は台湾・中国・マレーシア・北米などが拡大
- ・収益性の改善はソリューション・機能商品の売上拡大に加え、プラント案件の採算性向上が寄与

中長期計画：企業価値向上への取組み

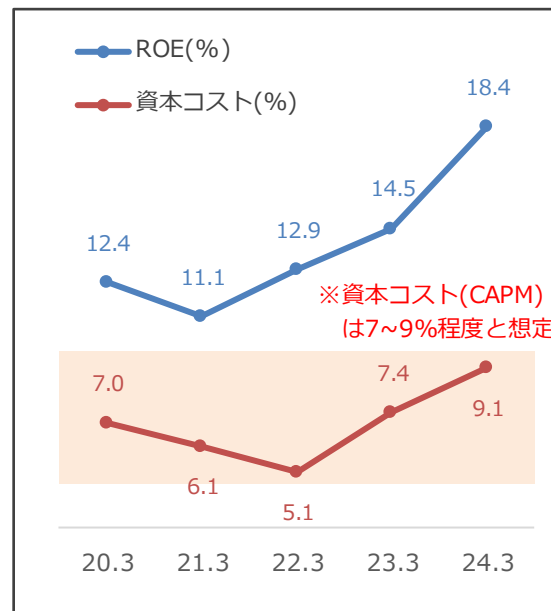
一株当たり指標と株価・PER・PBRの推移



■ 売上・利益の伸長など業績の拡大に加え、増配の継続など株主還元施策やIR活動の強化などにも注力。株価も上昇傾向で推移しており、PER・PBRも大きく改善

※PBRは「期末日株価÷一株当たり純資産」、PERは「期末日株価÷一株当たり純利益」で計算

資本コストとROE



● ROEの分解(24.3期)

ROE	=	収益性	×	効率性	×	レバレッジ
18.4%		11.5%		0.87回転		1.85倍
		当期純利益率		総資産回転率		財務レバレッジ

【ROE改善方針】

- ・ 売上の拡大や利益率の改善
- ・ 売掛金や在庫の削減などによる資金効率の改善
- ・ 株主還元の拡大や成長投資への借入金活用など資本構成の最適化

■ 株価や金利の動向を背景に資本コストは9%程度まで上昇も当社ROEが上回る状況続く。中長期計画では資本コストを上回る**ROE12%以上を必達目標**とし、さらなる改善を目指す

※資本コストはCAPM($R_f + \beta(R_m - R_f)$)で算出

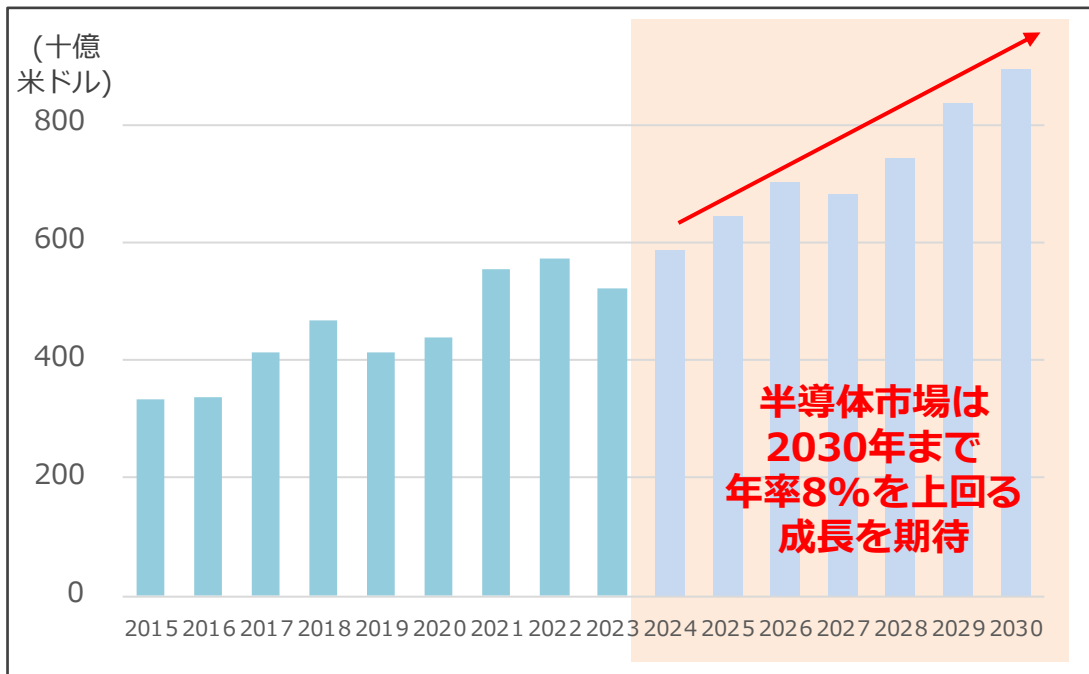
R_f (リスクフリーレート)：長期国債(10年)利回り：0.8%前後

β (β 値)：株価変動率(3年推計)：1.6前後

R_m (マーケットリスクプレミアム)：株式期待利回り：6%前後

中長期計画：半導体市場の見通し

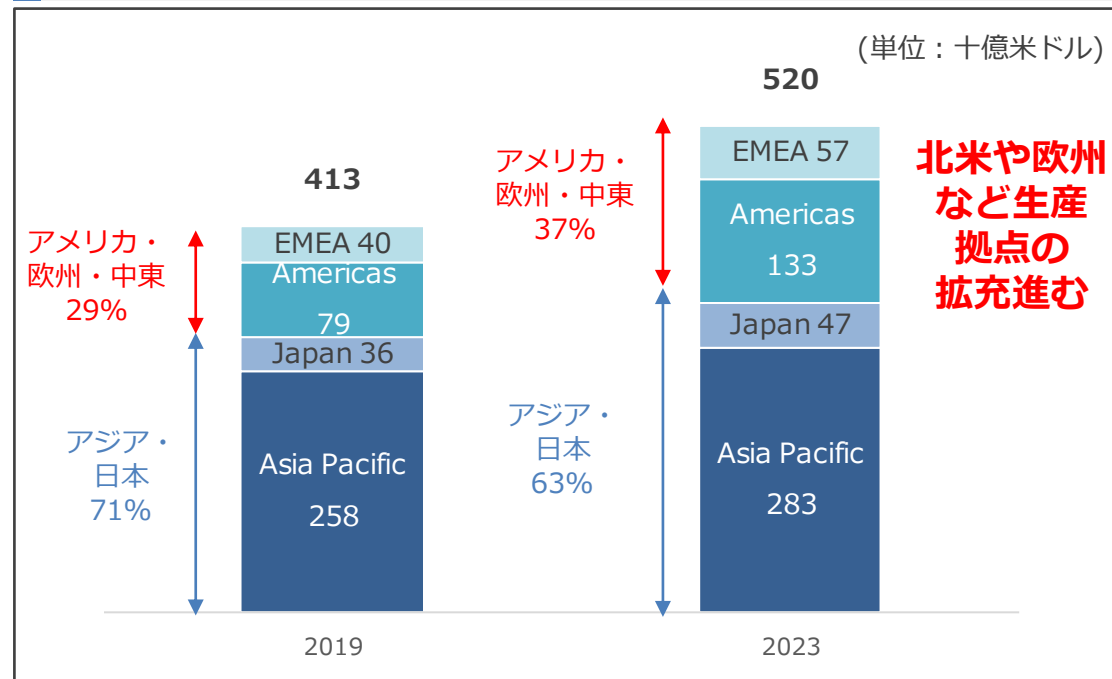
半導体市場予測(WSTS予測より当社想定)



■半導体市場は拡大予測

A I やEVなどの進展により2030年までの半導体市場は2015~2023年までの成長率を上回る成長を期待。これに伴ない半導体材料や電子部品などの需要も拡大

地域別半導体市場(WSTS調べ)

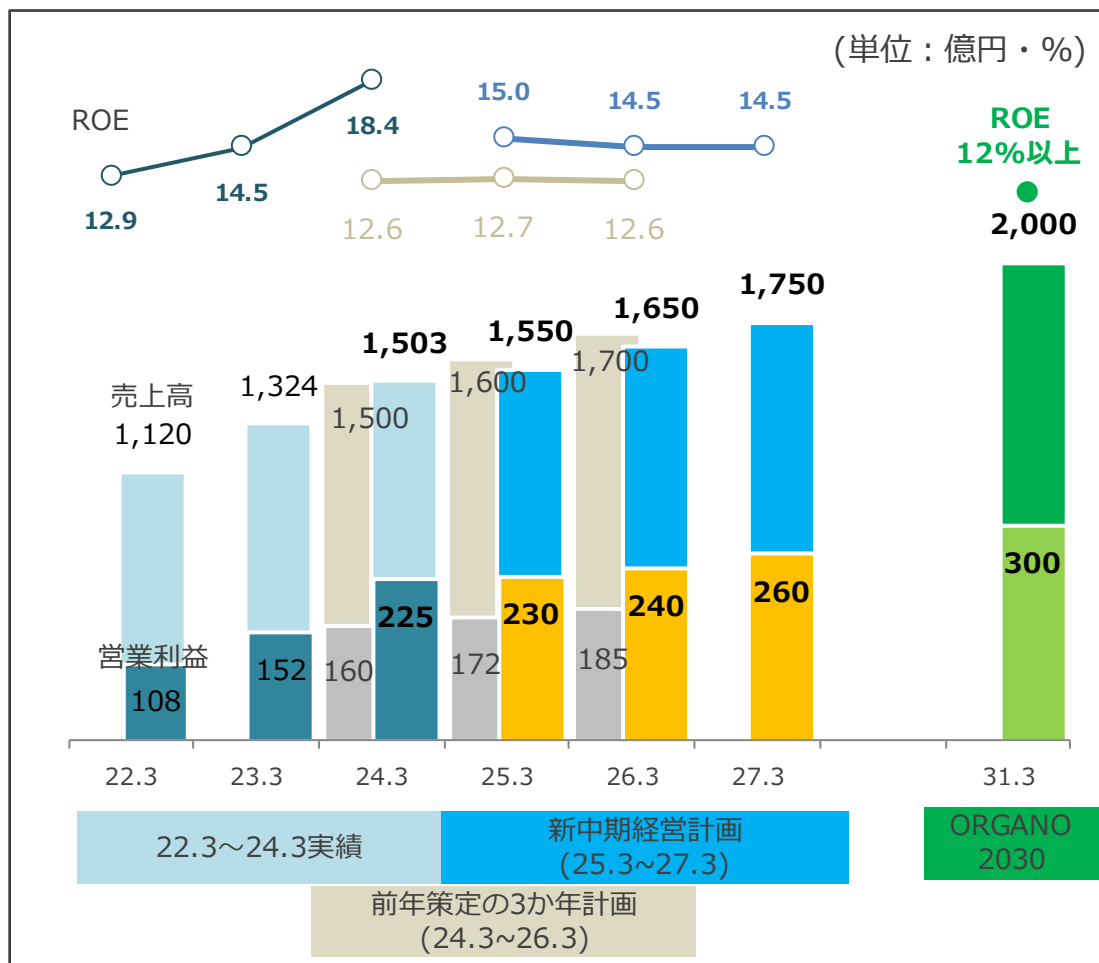


■半導体サプライチェーンの再構築

米中摩擦や台湾問題など地政学リスクを背景に、半導体サプライチェーンの世界的な再構築が進む。アジアからアメリカ・欧州などに生産拠点を移管する動きが進む

中長期計画：計画の概要

中長期計画の目標値



■ 中長期計画の概要

- ・長期計画“ORGANO2030”に基づき、毎年3か年の計画をローリングして策定
- ・長期計画は2030年度に売上高2,000億円以上、営業利益15%以上、ROE12%以上を目指す
- ・3か年計画では2026年度に売上高1,750億円・営業利益260億円の達成を目指す

■ 次期3か年計画

- ・国内外で計画される半導体関連の複数の大型案件の受注を想定、現状の「延長線」で計画
- ・エンジニアリングキャパシティの拡充を推進
- ・設備保有型契約や各種メンテ・薬品などソリューションや機能商品の拡大にも取り組む

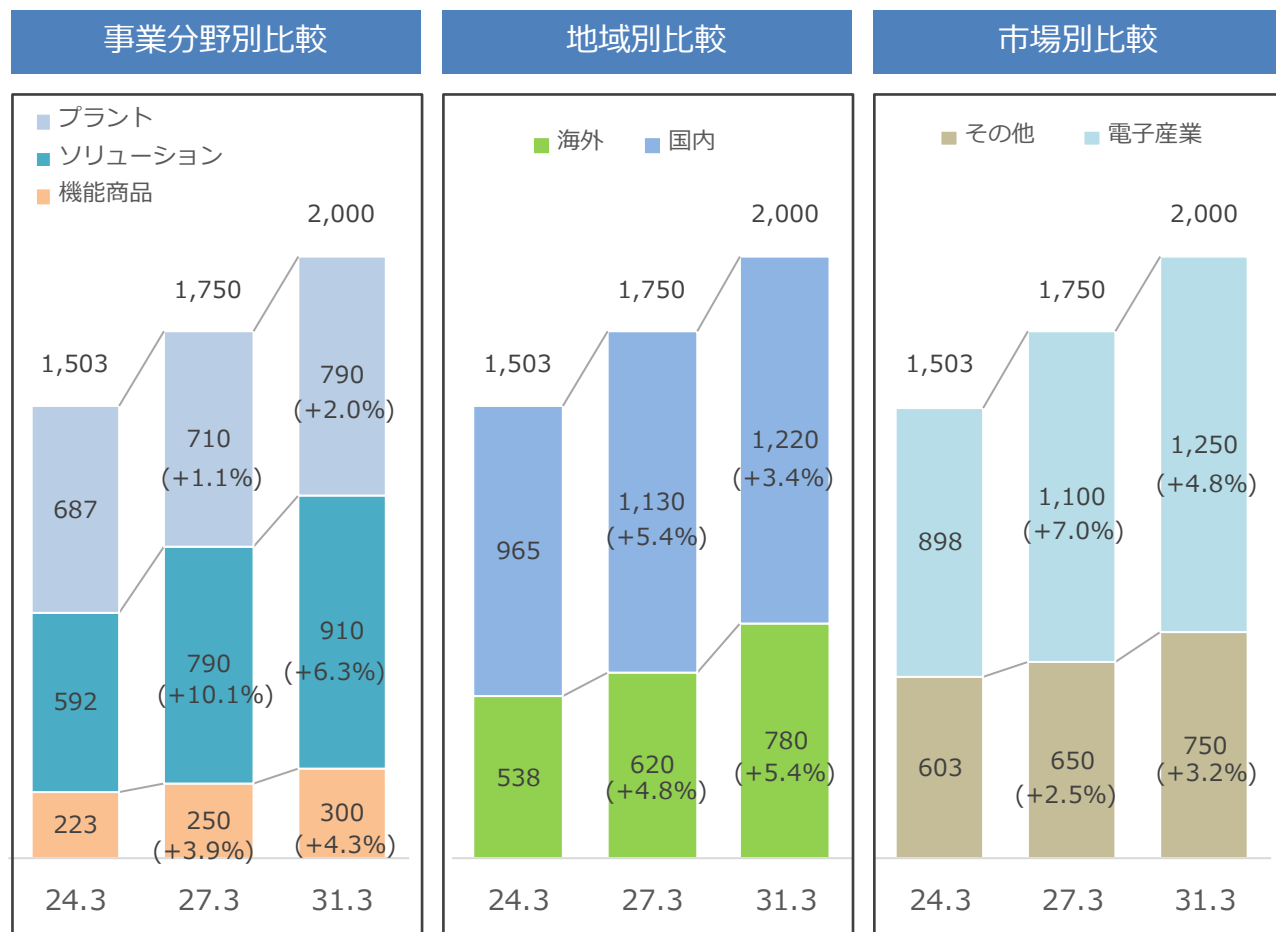
■ 長期計画“ORGANO2030”

- ・アメリカでの展開などグローバル戦略を強化
- ・高度分離精製や水回収など、省エネや脱炭素などサステナビリティ課題に貢献する新たなソリューションサービスを拡充
- ・M&Aなどインオーガニックな成長にも取り組む

中長期計画：部門別計画

(単位：億円)

売上構成の比較(カッコ内はCAGR)



■ 半導体など電子産業分野の拡大

国内外で計画が進む大型の半導体投資の受注を想定。エンジニアリング・キャパシティ拡充に向けグローバルでの人的資本の強化やM&A・パートナーシップ施策の強化、デジタル投資などを拡充

■ ソリューション・機能商品の拡大

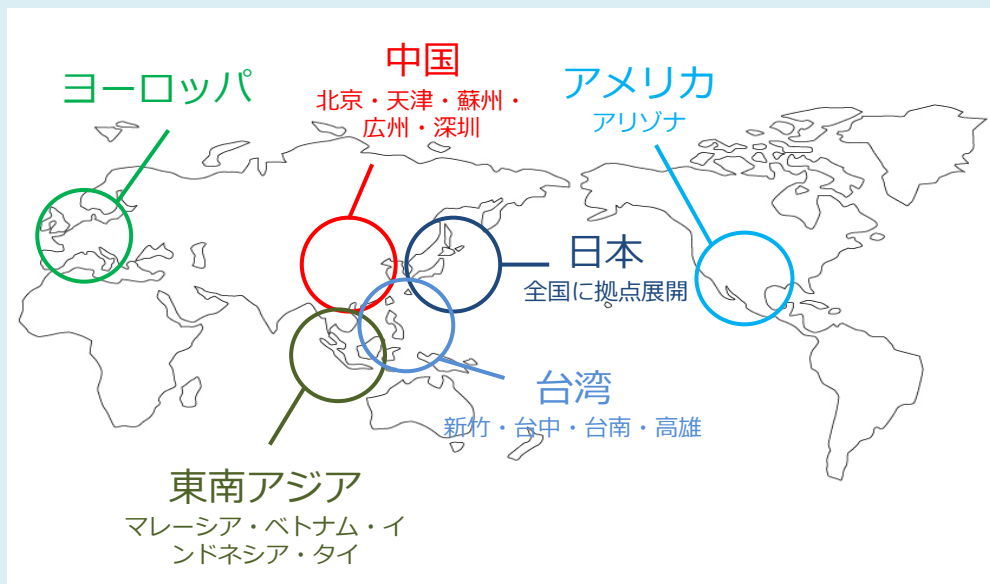
設備保有型契約の拡大や、国内外で納入が進む大型プラントに対するメンテナンス、水処理薬品の拡販などに加え、省エネ・脱炭素などサステナビリティ課題に向けたソリューションサービスや機能商品の展開を強化

■ 新たな事業・地域への展開

2030年までに半導体やリチウムイオンバッテリーなどの分野で展開を図る高度分離精製技術を50億円、半導体など北米での事業を100億円まで拡大する計画

中長期計画：グローバル展開戦略

グローバル展開戦略



■アメリカ

半導体産業への500億ドルの投資を含むCHIPS法成立。2021年設立の現地法人の強化を進める。半導体向けの水処理に加え、分離精製やその他のビジネス展開も図る

■中国

半導体産業に1兆元の投資を計画。EVなどに向けた半導体投資が活発。米国の規制動向なども踏まえながら事業体制を強化する

■台湾

最先端の半導体投資に向けた開発を進め、技術的な優位性をさらに強化する。顧客のグローバル展開への対応や、現地での研究開発やマーケティング体制の強化も図る

■ヨーロッパ

半導体関連産業に400億ユーロを超える支援を計画。現時点では具体的な進出計画はないが、顧客の投資動向などに合わせて進出可否の検討を進める

■日本

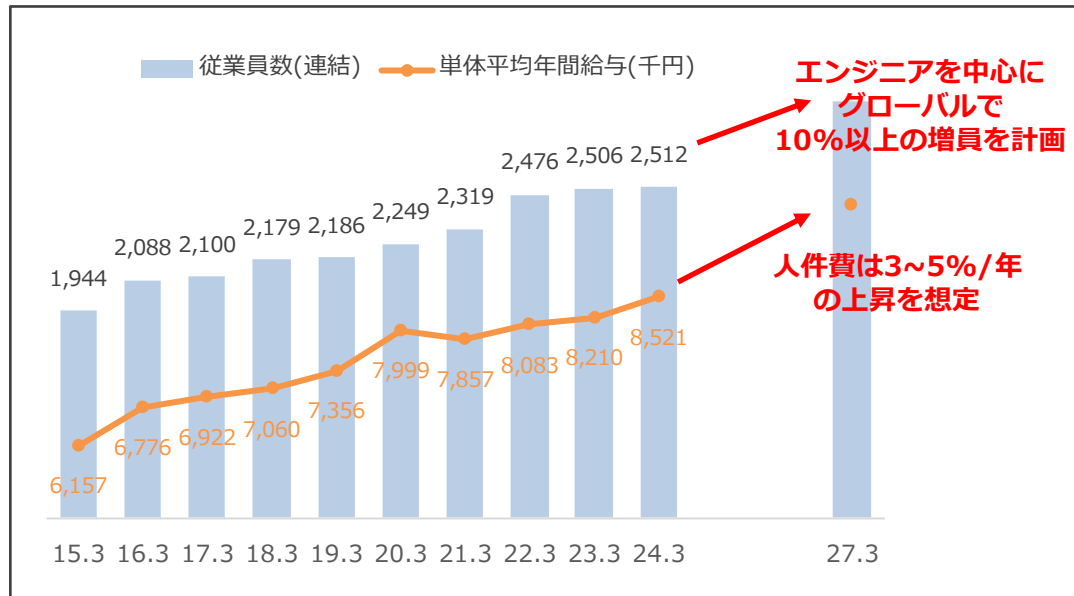
大型の半導体投資が複数計画。エンジニアリング・キャパシティの強化やソリューション体制の整備を進める

■東南アジア

マレーシアやシンガポールで半導体関連の大型投資計画あり。現法の体制を強化し事業拡大を図る。現地でエンジニアを採用・育成しグローバル人材として活用するプログラムにも取り組む

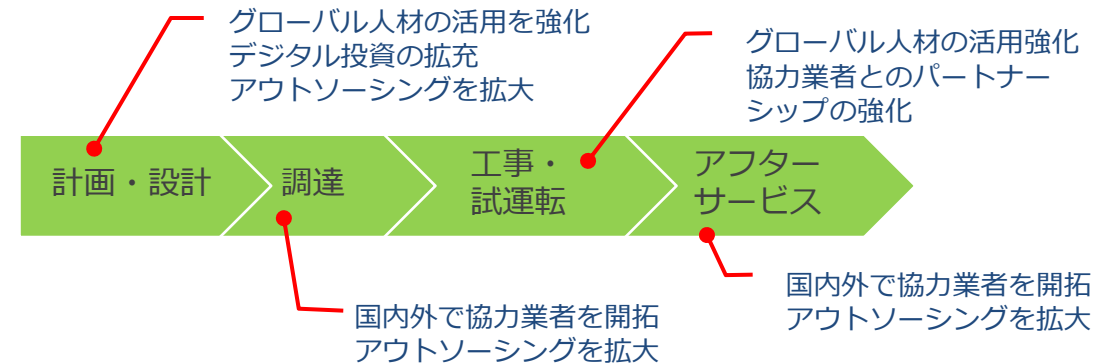
中長期計画：人的資本の強化とエンジニアキャパシティの拡充

人的資本の強化施策



- 海外人材や経験者・女性の採用拡大など**人材の多様化**に向けた取り組み推進
- スキルマップやローテーションプランの整備などの**育成/リスクリング施策**を拡充
- 賃上げなど従業員への還元も積極的に進めるなど**人的投資を拡大**

エンジニアリング・キャパシティの拡充



- ベトナムに設立したグローバルエンジニアリングセンターや各現法などで採用したエンジニアをグローバルに活用するプログラムを推進
- エンジニアリングシステムなどデジタル投資を拡充。設計業務の効率化やコスト管理の精度向上、運転管理データの活用などを進める
- 協力業者の開拓を進めアウトソーシングを拡大
M&Aなども視野にバリューチェーンを強化

中長期計画：新たな技術・サービスの展開

高度分離精製技術の展開

■ 非水溶液等の高度分離精製

半導体の洗浄や乾燥工程などで使用する薬液・溶媒などの高純度化要求に応えるイオン交換樹脂の開発

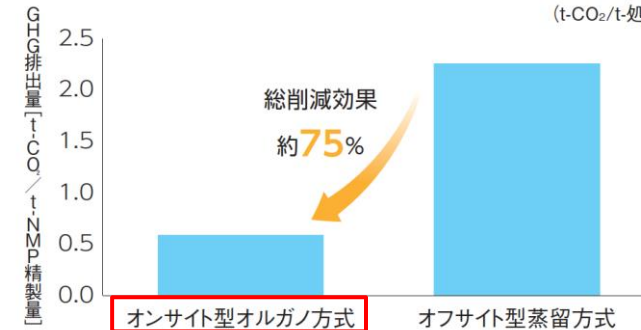


；腐食等の原因となる金属イオンなど不純物の除去や含水率の低減により歩留まりの改善に貢献

■ リチウムイオン電池の溶剤回収

正極材製造に用いられる溶剤のリサイクル設備の展開

○ ライフサイクルCO₂排出量



；LIB生産工場向けに初の実証機を導入、
；使用済の溶媒を効率的に回収、CO₂排出量を従来比約75%の低減を見込む

データ・デジタル技術を活用した顧客価値創造

■ AIを用いた省エネ、省人化

薬品注入量の最適化、逆浸透膜(RO膜)設備の運転管理サービスにAIを活用

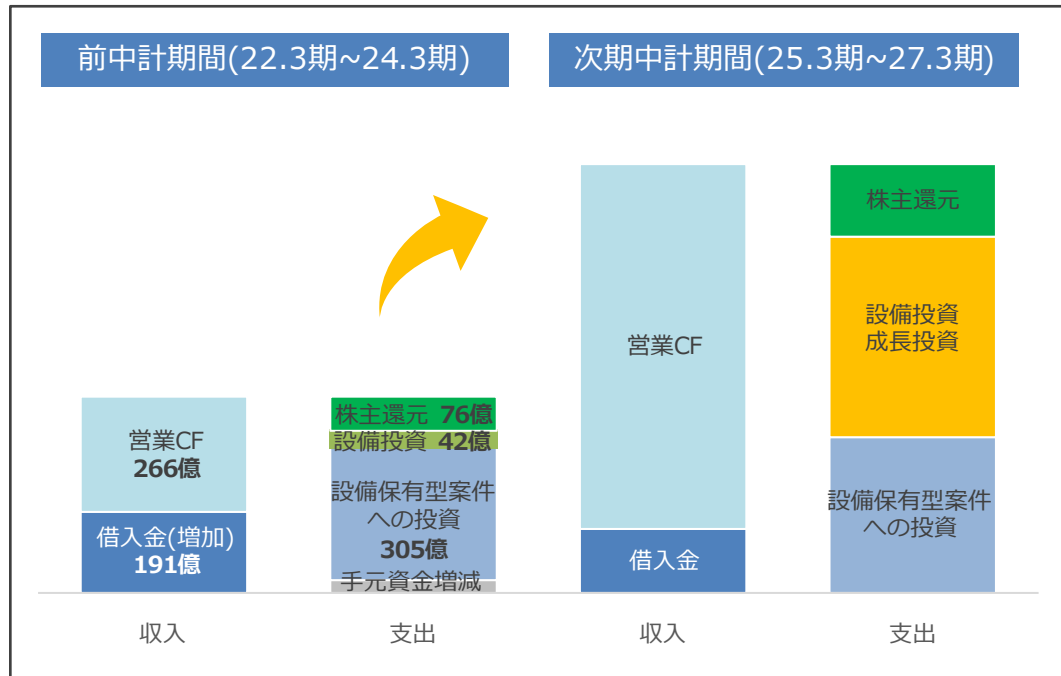
■ ソリューションの高度化を推進

あらゆるデータを一括管理するデータウェアハウスを構築中、ソリューションサービスの高度化を推進



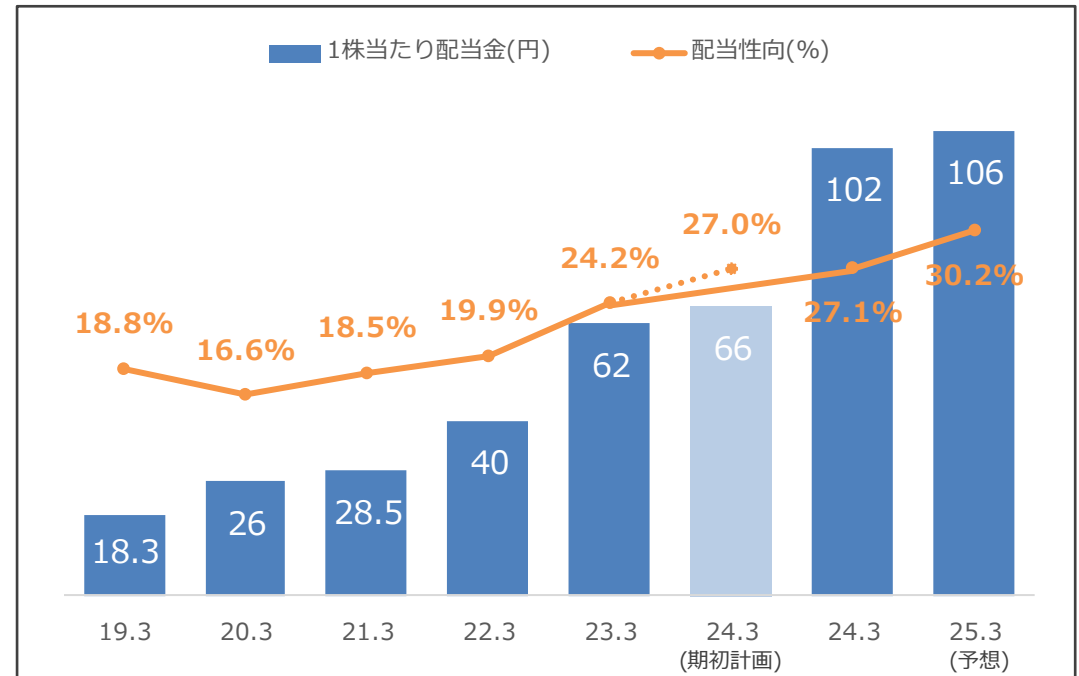
中長期計画：キャピタルアロケーションと株主還元施策

キャピタルアロケーション



- 成長投資として人的資本や研究開発、デジタルなどへの投資に加え、M&Aなどインオーガニックな成長に向けた投資の拡大を図る。設備保有型への投資は前中計期間と同程度を想定
- 現預金は現行水準である月商の1.5~2.0倍程度を目安とする。株主還元も強化しつつ、借入金も活用し成長投資を拡大

株主還元施策



- 24.3期は業績予想の改善に伴い配当予想も増額修正。期初計画の配当性向を維持し年間配当を102円まで増額。25.3期は配当性向30%超となる年間106円配当を計画
- 増配の継続と配当性向30%以上の水準を目標とし、株主還元と成長投資の両立と拡大を目指す

目次

1. 24年3月期実績・25年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

会社概要：経営理念とビジョン

■ 経営理念

オルガノは、水で培った先端技術を駆使して未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献するパートナー企業としてあり続けます

■ 長期経営ビジョン

付加価値の高い分離精製・分析・製造技術を基に事業領域と展開地域を拡大し、産業と社会の価値創造と課題解決を推進する製品・サービスを絶えず提供します

昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくり、一人ひとりが働きがいと活力に満ちた企業を構築します

■ サステナビリティ方針

わたしたちオルガノは、ステークホルダーとともに、未来に向けて持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します



E 水で培った最適化技術*で、水環境保全や温暖化防止に貢献する環境配慮型製品・サービスを提供します

S 人権および多様な価値観・個性を尊重し、従業員ひとり一人が成長し活躍する職場づくりを推進します

G 全てのステークホルダーとの対話と連携を重視し、誠実かつ公正な企業活動を遂行します

*水で培った最適化技術には、水処理に関わる分離・精製、分析技術やエンジニアリングにおける技術の追求と、その組み合わせによって社会のニーズに合致した最適なシステムやサービスを提供するという意味が込められています



代表取締役社長 山田正幸

会社概要：大株主の状況・株主構成

大株主（上位10名）

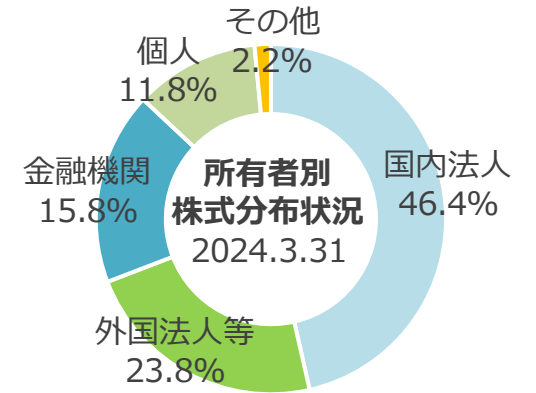
（2024年3月31日現在）

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東ソー（株）	20,379	44.28
日本マスタートラスト信託銀行（株）（信託口）	3,528	7.67
（株）日本カストディ銀行（信託口）	1,760	3.83
KBC BANK NV – UCITS CLIENTS NON TREATY	843	1.83
DZ PRIVATBANK S.A. RE INVESTMENTFONDS	646	1.40
野村信託銀行（株）（投信口）	614	1.33
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	515	1.12
（株）みずほ銀行	464	1.01
STATE STREET BANK WEST CLIENT – TREATY 505234	398	0.87
JP MORGAN CHASE BANK 385781	361	0.79

※持株比率は自己株式(338千株)を控除して計算

株主構成

- 発行可能株式総数 101,568千株
- 発行済株式総数 46,359千株
（自己株式 338千株を含む）
- 株主数 11,499名



●親会社の状況

当社の親会社である東ソー（株）とは1955年に資本参加を受け入れて以来の関係にあります。当社と東ソーとの営業取引関係については、一部原材料の仕入や水処理設備・薬品等の販売取引がありますが、依存度は僅少であり、両者が扱っている製品や取引先の点でも明確な棲み分けがなされていることから、当社は上場会社として事業活動や経営判断において一定の経営の独立性が確保されていると認識しております。また、当社は親会社グループと少数株主間の利益相反問題を監視・監督するため、独立社外取締役のみで構成される特別委員会を設置するとともに、2023年6月開催の第78回定時株主総会以降、取締役会に占める独立社外取締役の比率を過半数にしております。

会社概要：オルガノの事業構成

水処理エンジニアリング事業

| プラント事業



純水・超純水設備
排水処理・回収設備
有価物回収設備
プロセス関連設備

| ソリューション事業

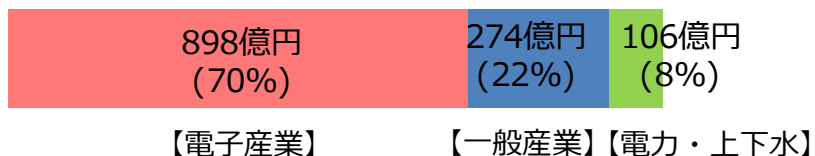


設備メンテナンス
運転管理・包括契約
設備増強・改造工事
水処理加工受託

| 事業別売上高



| 顧客分野別売上高



機能商品事業

| 水処理薬品事業



排水・冷却水・洗浄・
RO膜・ボイラ等処理剤

| 標準型水処理機器・フィルタ事業



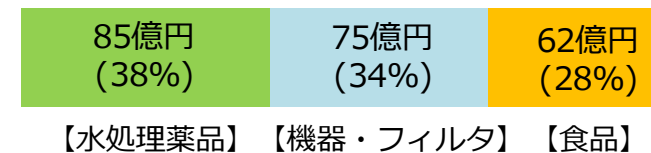
純水・超純水装置
浄水フィルタ

| 食品事業



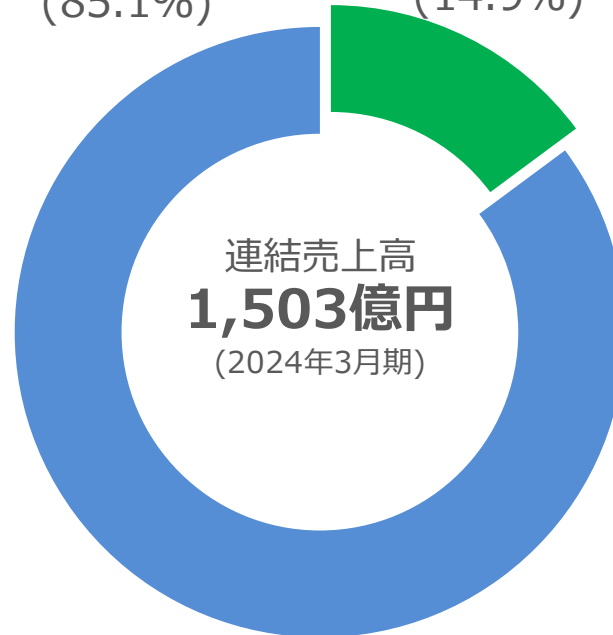
食品添加剤・加工剤
食品素材

| 事業別売上高



1,279億円
(85.1%)

223億円
(14.9%)



※金額は24.3期売上高、%は売上構成比率

会社概要：プラント・ソリューションの事業概要

プラント建設

ソリューションサービス



受注・売上の計上

- ・ **受注は契約時点**で計上
- ・ **売上は工事の進捗率**に応じて計上

設備規模

- ・ 水処理設備の一件あたり規模は**数千万円～百億円超**

施工期間

- ・ 大型設備の施工期間は**12～24ヶ月程度**

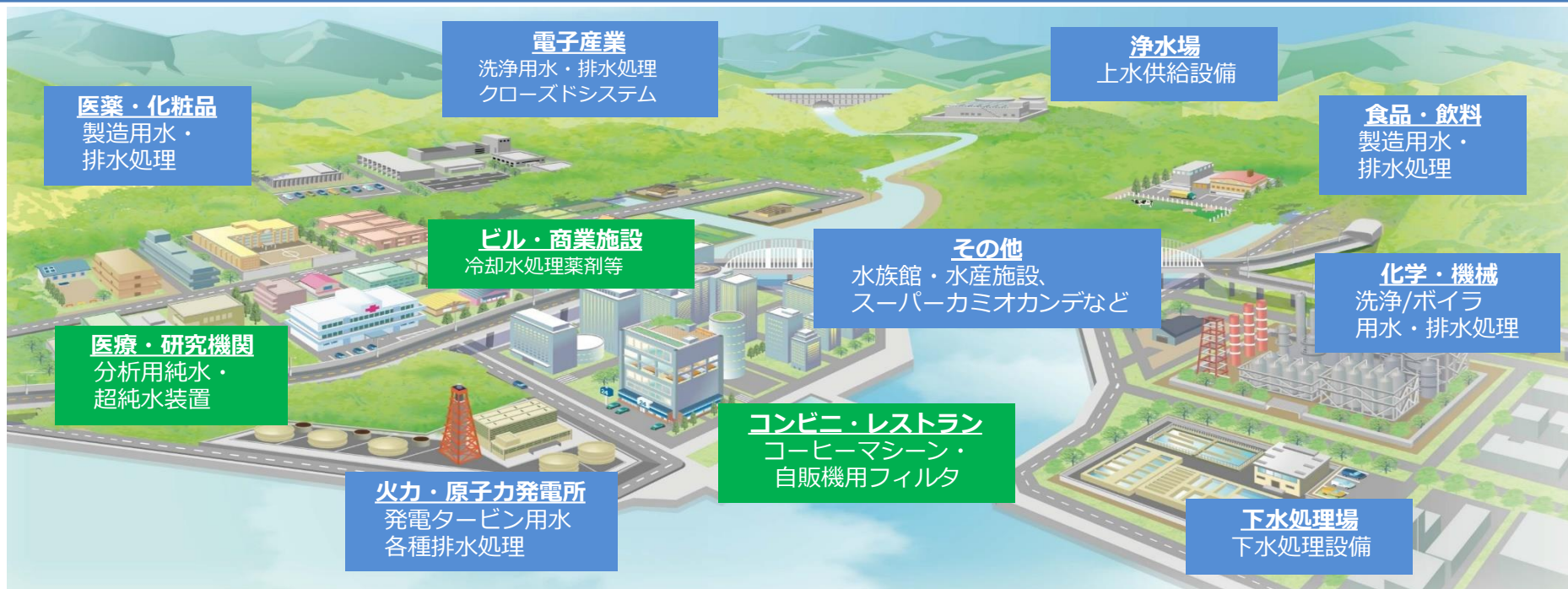
採算性の管理・動向

- ・ 一定の追加コストのリスク（コンテンジェンシーコスト）を工事予算に織り込んで管理
- ・ 採算性は市場の設備投資水準や原材料・工事などの価格動向にも影響

設備メンテナンス

- ・ 納入した設備に対する**メンテナンスサービスはリピート率高い**
- ・ 設備保有型のサービスや運転管理・包括メンテナンス契約などのソリューション事業を展開
- ・ 水処理薬品など機能商品の販売も

会社概要：生活と産業を支えるオルガノの水処理技術

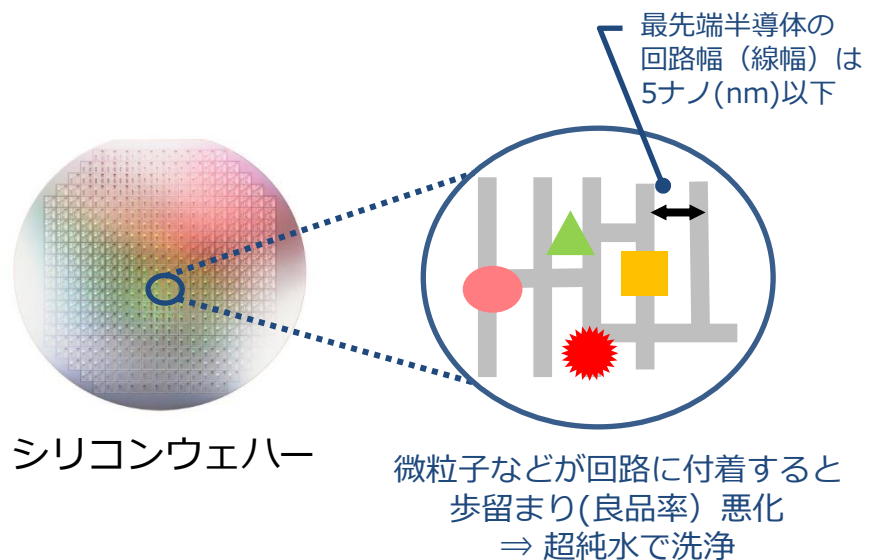


水処理エンジニア事業			機能商品事業		
電子産業 半導体・パネル・電子部品等	一般産業 医薬・化粧品、食品・飲料、機械・化学等	社会インフラ 火力・原子力発電所、上下水道	水処理薬品 各種製造業・ビル/商業施設	標準機器・フィルタ 医療・研究機関 コンビニ・レストラン	食品 食品/飲料・介護/健康食品

会社概要：半導体と水

多くの工程が必要な半導体製造プロセスのうち、3割程度を洗浄工程が占めると言われています。ウェハーの製造、成膜、エッチング、レジストなどの前後で繰り返し行われる洗浄プロセスに超純水が用いられています

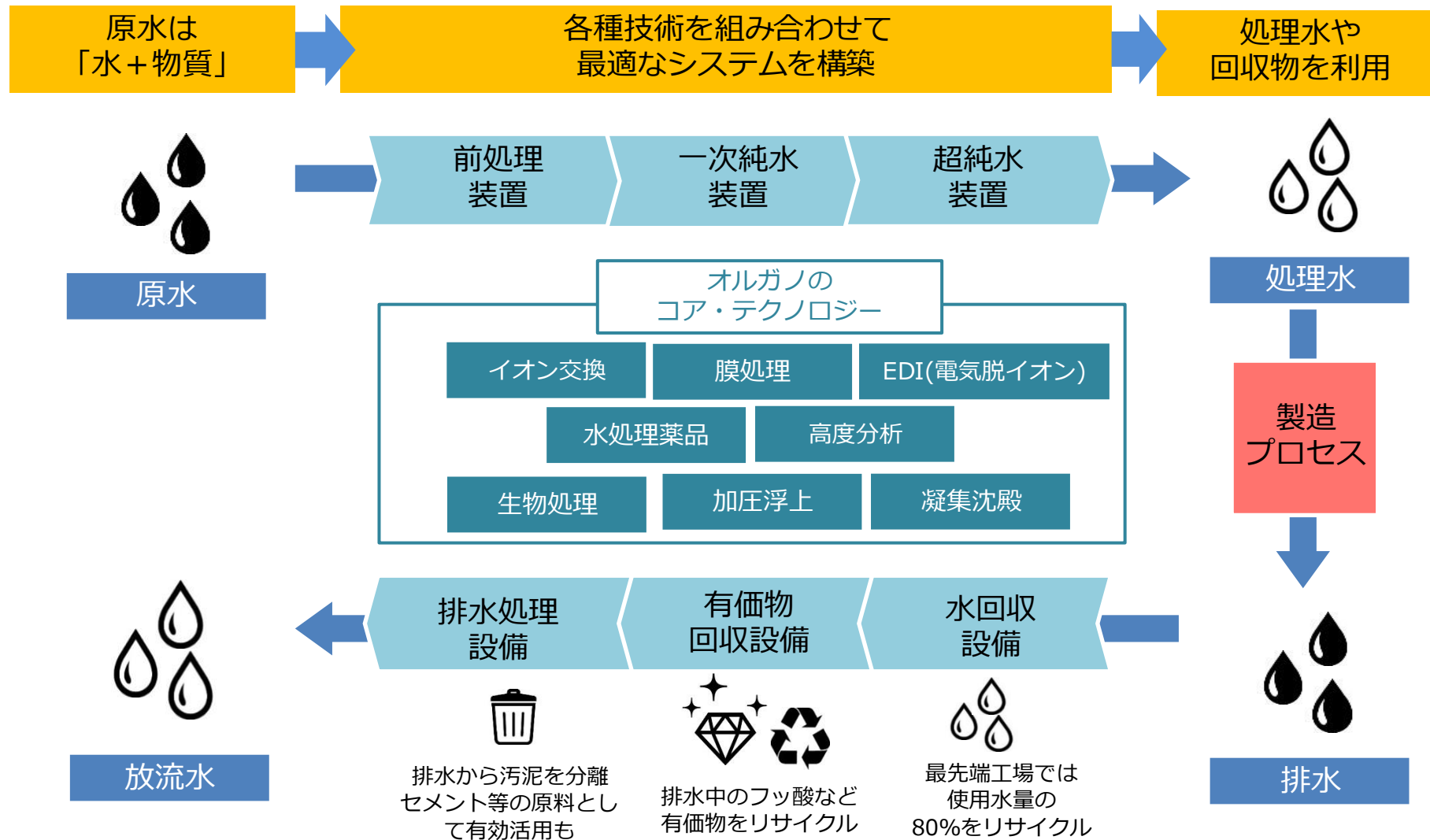
超純水で歩留まり改善に貢献



どこが	どれだけ	すぐれた技術力と価値
不純物濃度	1ppt以下	質量濃度は1兆分の1。オリンピック競泳50mプール(2,500m ³)の超純水に溶け込んだ不純物の量は僅か耳かき1さじ(2.5mg)分
製造水量	1000Ton/時	大容量の高性能ポンプや大口径配管を使用。オリンピック競泳50mプール(2,500m ³)が2時間半で満杯に
水の回収率	80%	半導体工場では洗浄用水など大量の水を使用するが、最先端の工場では80%以上の水を回収し再利用。水のリサイクルだけでなく、排水中に含まれる有価物を回収する技術も活用

オルガノはウェハーやチップの洗浄に用いられる超純水の供給設備、洗浄や他の製造工程で生じる排水を無害化・廃棄物を低減するための処理設備、水のリサイクルシステム、排水からフッ素・レアメタルなどの有価物を回収・再資源化するシステムなどを提供しています

会社概要：電子産業向け水処理設備



会社概要：オルガノの歩み（売上高推移）

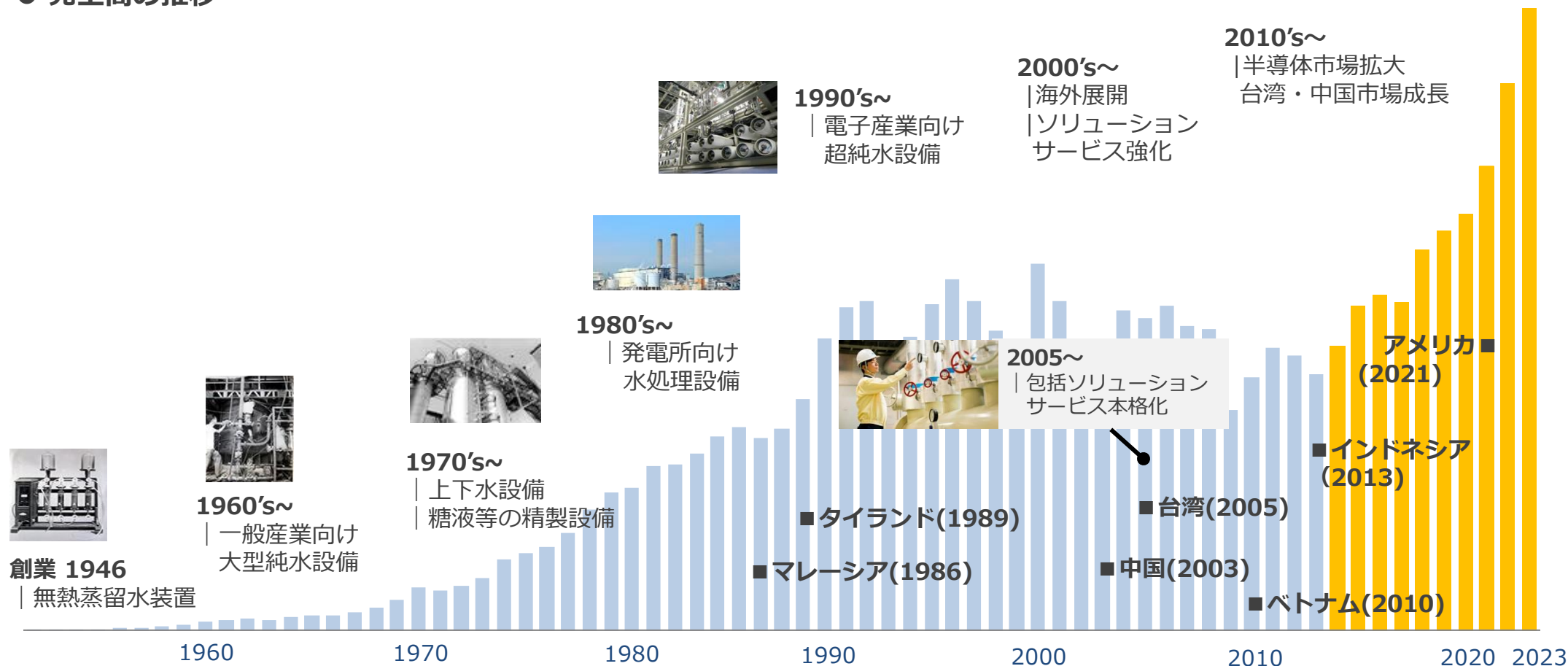
創業期

成長期

成熟期

飛躍期

● 売上高の推移



お問い合わせ先

経営統括本部 経営企画部 IRグループ

ホームページ

<https://www.organo.co.jp>

お問い合わせフォーム

<https://www.organo.co.jp/contact/>

IRメールニュースのご登録 (New)

<https://www.organo.co.jp/ir/mail-news/>

本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。